

歯っぴ〜噛む噛む

Happy come come



生え始めの永久歯『幼若永久歯』って何？

幼若永久歯とは、乳歯が抜けて新しく生えてきたばかりの永久歯のことです。この時期の歯は、大人の歯（成熟した永久歯）と比べていくつかの特徴があり、特に虫歯になりやすい状態にあります。

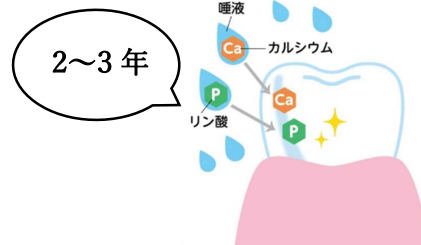
【幼若永久歯の特徴】

生え始めは「未熟」な歯質

幼若永久歯は、歯の表面のエナメル質の石灰化（硬くなること）がまだ不十分で、むし歯になりやすいです。石灰化は生えてきておよそ2〜3年かけて少しずつ成熟していきます。



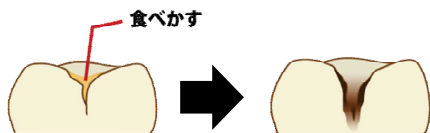
むし歯菌の出す酸に弱く、むし歯になりやすいです



唾液中のミネラルを取り込み、成熟していきます

汚れが残りやすい

奥歯の幼若永久歯は、表面の溝が深く複雑な形をしています。また、生え始めは、まだ背が低かったり、一部だけ生えていたりして、歯ブラシが届きづらく汚れが残りやすい時期になります。

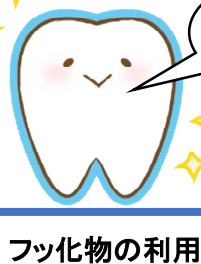


溝に食べかすや歯垢がたまり、むし歯菌の住処になります



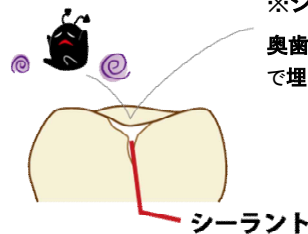
段差ができ、汚れが残りやすい原因になります

虫歯にならないために



フッ化物の利用

フッ化物は歯質を強くし、むし歯予防に役立ちます。



シーラント

歯の溝を埋めて、汚れがたまるのを防ぎます。

※シーラントとは
奥歯の溝を樹脂（プラスチック）で埋める処置です。



仕上げ磨き

生え始めの歯をしっかり磨き、磨き残しを除去します。

フッ化物の塗布や、シーラントは歯科医院で受けることができます。定期的な受診をこころがけましょう